

お 泉 水

1988年11月15日

■昭和63年度全国公共図書館研究集会

◇整理部門

テーマ 図書館協力を前提とした図書館資料収集と保存

10月6日・7日の両日、福島市で「図書館協力を前提とした図書館資料収集と保存」を研究テーマに昭和63年度全国公共図書館整理部門研究集会が開催された。参加者は232名で、本県からは4名が出席した。

研究内容は「公共図書館をめぐる最近の動き」栗原 均（日本図書館協会事務局長）、「知識分類と類書・百科事典の展開一洋の東西比較」小野泰博（図書館情報大学教授）の両氏の講演に続き、「北方資料収集のための図書館協力体制」「新潟県における雑誌の収集と保存の協力について」「名古屋市立図書館における資料収集・保存分担の現状と課題」について、事例発表と研究討議が行われた。

講演の中で栗原氏は、資料の多様化・大量化のなかで市民のニーズに対応するには図書館相互の協力体制の確立が強く求められており、ネットワークによる相互協力が、公立図書館運営の基本であり図書館活動をすすめる上での重要課題であると述べられた。

◇奉仕部門

テーマ 図書館奉仕の当面する諸問題をめぐって

10月20日・21日の両日、和歌山市で「図書館奉仕の当面する諸問題をめぐって」を研究テーマに昭和63年度全国公共図書館奉仕部門研究集会が開催された。参加者は321名で、本県からは6名が出席した。

研究内容は「公共図書館の今日的役割とネットワーク」糸賀雅児（慶應義塾大学 図書館情報学科）の講演に続き、「ネットワークを考える」「特色あるサービスの追求」についての事例発表と研究討議が行われた。

講演で糸賀氏は、現在の公共図書館をとりまく社会の動きと生涯学習援助機能の充実・強化のためのネットワーク形成について述べた。分科会では、ファクシミリの設置による図書館ネットワークの整備、コンピュータ導入における諸問題等についての発表があり、有意義であった。

◇児童奉仕分科会

テーマ すべての子どもに読書のよろこびを一現状と課題一

9月29日・30日の両日、金沢市で「すべての子どもに読書のよろこびを一現状と課題一」を研究主題に第24回児童

に対する図書館奉仕全国研究集会が開催された。参加者は428名で、本県からは15名が出席した。

講演では、「絵本と子どもの世界一であい・ふれあいを語る一」と題して松居友氏（児童図書編集者）が、絵本は子どもたちにとって、生きる喜びを大人とともに体験することであると語り、続いて松居直氏（児童文学作家）が、ユネスコの専門委員としてアジアを訪ねて知ったアジアから学ぶべきこと、また、図書館の役割、図書館への希望などを述べた。

このあと4つの分科会に分かれ、1) これからの児童奉仕の方向、2) 子どもと本を結ぶ活動、3) 館外での児童奉仕、4) 児童図書館員の養成と研修、のテーマに沿って事例発表・研究協議がなされた。全体会では、積極的な意見交換があり、「学校図書館に司書を必ず配属する」、「司書養成課程に、児童図書館学を必修課目に復活させる」という二つの要望書を関係機関に提出することが決まっている。

■昭和63年度東海北陸地区県立・指定都市立図書館長会議

7月21日・22日の両日、坂井郡芦原町で昭和63年度東海北陸地区県立・指定都市立図書館長会議が開催された（本県担当）。まず、富山県より東海北陸地区公共図書館研究集会、石川県より児童に対する図書館奉仕全国研究集会への協力・参加の要請があった。続いて、全国公共図書館協議会第1回理事会（愛知）・日本図書館協会公共図書館部会（福井）・日本図書館協会東海北陸地区地方講習会（結果報告・富山）の報告および各館の今年度予算ならびに行事について説明を行った。

■図書館年鑑東海北陸地区編集連絡会議

9月16日・17日の両日、愛知県犬山市で図書館年鑑東海北陸地区編集連絡会議が開催され、「1989年版」の編集方針について討議した。基本的には「1988年版」の編集方針に準ずるが、ただ、継続して行われている行事については省略していく方向で決定をみた。また、「図書館年鑑」の購入依頼について日本図書館協会より要請があった。

なお、本県の北陸ブロック編集委員担当は今年度で終わり、来年度からは富山県が担当する。

■日本図書館協会関係全国研究集会 昭和64年度（予定）

区 分	開催地	区 分	開催地
全国大会	宮崎県	奉仕部門	群馬県
整理部門	山口県	移動図書館分科会	沖縄県

新設図書館紹介

＜芦原町立図書館＞

業務の合理化と利用者サービスの向上をめざし、パソコン導入

芦原町は福井県の最北に位置し、情緒あふれる温泉街を中心に、北に丘陵地農業地帯、南に水稲単作地帯が広がる観光と田園の町です。面積は37.57km²で、南北間距離11.8km、東西間距離7.75kmと地形は南北に長く、北端は砂浜の続く日本海に面し、北東には風光明媚な北潟湖が横たわり、南部は平坦な坂井平野の一角を形成しています。

芦原町は人口13,955人世帯数3,891世帯で、中学校が1校、小学校が5校あります。

町立図書館は今年4月5日に開館しました。場所は芦原湯町駅裏の中央公民館と南保育園との間で、中央公民館とは渡り廊下でつながっています。

図書館建設の概要は次のとおりです。

敷地面積	1,216.00㎡
建物面積	694.96㎡
建 物	鉄筋コンクリート平屋建
着工年月日	昭和62年8月10日
完成年月日	昭和63年2月12日
開館年月日	昭和63年4月5日
総事業費	166,630千円
内 訳	
事務費	設計管理委託料等 5,361千円
工事請負費	建築工事 148,000千円
	電気工事 9,106千円
	その他 1,550千円
備品購入費	一般備品 2,613千円

館内には、一般閲覧室・学習室・児童閲覧室・会議室・ホール等があります。

一般閲覧室は、書架のコーナーと閲覧用コーナーに別れ、閲覧用コーナーには4人掛けの机が8台並べてあります。

学習室は、壁面が書架になっていて、参考図書と郷土資料があり、4人掛けの衝立付机が6台並べてあります。

児童閲覧室は、壁面が低い書架になっていて、丸テーブルが1台置かれています。床はじゅうたん敷になっていて、

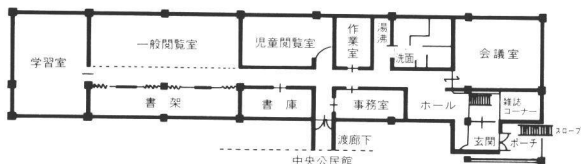
子供が自由に本を読めるようになっています。また、ここには町内の点訳奉仕グループの方より寄贈された点訳付の児童書が置かれており、今後も順次ふえる予定です。

ホールには、13種の雑誌と4種の新聞が備えられています。

現在の蔵書数は、約13,300冊（一般書 9,300冊・児童書 3,200冊・郷土資料 800冊）で、利用登録者数は約3,900人です。また、1日平均の貸出冊数は約100冊です。

県内では昨年開館した坂井町立図書館について、パソコン（NEC PC-9801UX）を導入し、プログラムパッケージ（PENTAX社、BOOKMAN）を載せて運用しています。そのため統計資料等、時間のかかる作業や、貸出・返却の作業がわずかな時間ででき、効果をあげています。

■館内見取図



芦原町立図書館 佐々木幸枝

■小学校部会

小学校部会では、2校からの研究発表があり、その協議の後、各県の研究や現状についての情報が交換された。

午前中は、福島県小野新町小学校の矢内みち教諭から、「学校図書館における学習・情報センター機能の拡充を図る—学習機能を高める図書館運営にむけて」と題して発表があり、午後は、長野県須坂小学校の山口勝郎教諭から、「読書活動の活性化を図る」と題しての発表があった。2校とも研究を始めて間がないということで、実態と今後の構想を中心にしての発表だった。学習コーナーと読書コーナーを別置き、学習に利用しやすくする、本好きな子にするため読み聞かせや読書紹介をするなどの手だてが紹介された。2・3の質問の後、参加者の実践例として、「学校全体を図書館に」という考えから、特別室やホールなどあらゆる所に本を置き、自由貸出ししている例、利用指導の手引きとワークシートを作成し、全担任が利用している例、毎日10分間読み聞かせをし、本好きな子がふえた例などが紹介された。「活性化」ということで、「星取り表」の是非について質問が出されたが、ひとりひとりの事情を考慮し、個を尊重するという点から、好ましくないとの助言があった。

まだ経験も浅く、日々の指導に追われている私であったが、今回協議会に参加して、学校図書館の役割がいかに大きなものであるか痛感した。学習に役立つ図書館、自学・自習する児童をめざして、微力ながら努力していきたい。
(湊小学校 内田あけり)

■中学校部会

「学校図書館における学習・情報センター機能の拡充を図る」(群馬県高崎市八幡中学校の発表から)

全校生800名、図書室は普通教室3つ分ぐらいの広さがあり、景色もよく、快適な環境である。1日の利用数100~120名程度であり、かなり利用されているが、ほとんどが、文学、それも推理小説・探偵小説のたぐいであり、学習・情報利用の観点からいうと、利用状況は悪い。

そこで図書室を、1)利用しやすい、2)学習の課題解決情報を得る、場として位置づけ、(1)年間指導計画に月1回の読書の時間を設ける、(2)学年コーナー(各学年100程度・学習に関連したもの)を設ける、(3)委員会活動として(ア)読書会(イ)読書感想文コンクール(ウ)読書クイズ(エ)新刊紹介などを行う、(4)教科担当教師による積極的な活用

(エ)学期に1回は発展学習として利用する、(イ)問題解決の場での個別学習、(5)視聴覚教材の整備、などの活動を行い、図書室の積極的利用を図っている。

＝討議から＝(1)図書館をメディアセンター(コンピュータ・教育工学・情報センター・図書館)として位置づけるような時代がくるのではないか、(2)教師からの情報だけでなく、生徒自身による、主体的・目的・必要感に迫られた情報の追求がなされねばならない、(3)利用したいという気を起こさせるような広報活動(図書館だより・私のすすめる本・読書案内～帯づくり・図書館利用ハンドブック・名作を訪ねて…)の工夫がもっとなされるべきである、など活発な意見が出された。
(光陽中学校 寺本 昌孝)

■高等学校部会

研究協議は題を「学校図書館における学習情報センター

機能の拡充を図る」として、小・中・高の三部会に分かれて、それぞれ協議会がもたれた。協議会に入る前に「情報化社会の中での教育」と題して、慶応大学名誉教授沢田充茂氏の特別講演があった。

今日の無秩序な情報過多はわれわれの生活を混乱させ、生きること考えることの障害となっ

ている。情報過多を整理し組織化した健全な「心の地図」の構築を助ける教育が急務である。知識を愛する活動(knowing that……)をどう展開し、どう有機化(knowing how to……)させていくかを問いかける酷のある内容であった。

高校部会での協議内容は、先ず図書館を見る角度5項目をふまえて、購入図書を選定の仕方、教科指導進度表と図書館利用、図書館の諸データと学校運営体制、読書意欲を高めるための工夫、目録作成とコピー機導入、コンピュータ導入、蔵書増加にともなう古い書籍の廃棄処分等、活発な情報交換・意見発表があった。図書館関係者の情熱・企画力の重要性を改めて認識した。

前後して行われた専門講義 I「教育課程の改善と学校図書館」(大阪大学教授水越敏行氏)・II「子供と本とおとな」(メルヘンハウス代表三輪哲氏)・III「学校図書館の課題—最近の海外動向をふまえて」(東京学芸大学教授長倉美恵子氏)はいずれも示唆に富む講義であった。

学校図書館のあり方として、学校を去っても Library Center を去ることなく人間的知識を求め続けていく素地を充分育む姿勢が大切である。

(藤島高等学校 高木 広栄)

福井県図書館協会規約を一部改正

去る6月16日に開催した昭和63年度総会で、規約の一部が改正されましたので新規規約を報告します。

福井県図書館協会規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 この会は福井県図書館協会と称する。

(組織)

第2条 この会は次に掲げるものをもって組織する。
(1) 公共図書館、大学(附属)図書館、工業高等専門学校附属図書館、学校図書館協議会および図書館同種施設ならびに公民館
2. 前項の職員および個人でこの会の目的に賛同するもの。

第2章 目的および事業

(目的)

第3条 この会は福井県内の図書館活動の振興を図り、文化の進展に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 この会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
(1) 図書館事業に関する調査研究
(2) 図書館活動に関する講演会、講習会、展示会等の開催
(3) 資料の収集および情報の交換
(4) 図書および図書館用品の選択購入のあっせん
(5) 読書の普及および指導
(6) 図書館職員の研究、研修会の開催
(7) 機関誌、その他印刷物の刊行
(8) その他、この会の目的を達成するために必要な事業

第3章 役 員

(役員)

第5条 この会に次の役員を置く。
(1) 会 長 1名
(2) 副会長 3名
(3) 理 事 若干名
(4) 監 事 2名
2. 会長および副会長は、理事の互選とする。
3. 理事、監事は総会において選出する。
4. 役員任期は2年とする。ただし再任を妨げない。補欠による役員任期は、前任者の残任期間とする。

(職務権限)

第6条 会長は会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は、会長を補佐し会長に事故のある時はその職務を行う。
3. 理事は、重要事項を審議する。
4. 監事は会計を監査する。

第4章 会 議

(会議)

第7条 この会の会議は総会および理事会とする。

(総会)

第8条 総会は会長が招集する。
2. 総会は構成員の3分の1以上の出席で成立する。
3. 議事の成立は出席者の過半数の同意をもって決める。可否同数のときは議長が決めるところによる。

4. 定期総会は毎年1回開催する。ただし会長が必要と認めたときは臨時総会を開催することができる。

5. 総会の権限は次のとおりとする。

- (1) 主要事業の決定
- (2) 予算の決定および決算の承認
- (3) 規約の改正
- (4) その他、この会の目的の達成に必要な事項

(理事会)

第9条 理事会は会長、副会長および理事をもって構成する。

2. 理事会は会長が必要と認めるとき、または理事の3分の1以上の要求のあるとき会長が招集する。

3. 理事会は構成員の過半数の出席で成立する。

4. 理事会は次のことを審議する。

- (1) 総会に提出する議案
- (2) 総会から委任される事項
- (3) その他の必要事項

5. 総会を開催することができないと認められた場合には、理事会は総会に代ってその権限を行う。ただし、次期総会において承認を得るものとする。

第5章 顧問および参与

(顧問)

第10条 この会に顧問を置くことができる。

2. 顧問は理事会の承認を得て会長が推薦し会長の諮問に応ずる。

(参与)

第11条 この会に参与を置くことができる。

2. 参与は、理事会の推薦により会長が委嘱する。

3. 参与は理事会に出席して意見を述べることができる。

第6章 会 計

(経費)

第12条 この会の経費は次のものをもってあてる。

- (1) 負担金
- (2) 会 費
- (3) 県費補助金
- (4) その他の収入

2. 負担金、会費については別に定める。

(会計年度)

第13条 この会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第7章 事 務 局

(事務局)

第14条 この会の事務局は、福井県立図書館内に置く。

2. 事務局は会長の統括のもとに事務を処理する。

3. 事務局に常任幹事および幹事若干名を置き会長が任命または委嘱する。

付 則

1. この規則は昭和63年6月16日から施行する。

2. 昭和45年10月30日設定の福井県図書館協会規約は廃止する。

談 話 室

3年目の課題として

開館3年目にして、図書室の活気が、漸しく生まれてきました。この引き金となったのが、瀬戸内学長が、女子学生に相応しい本を、と設けられた「寂聴文庫」が好評を得た為です。欠如していた文学書も充実し、嬉しい反面、本館はこんなにも魅力に欠けていたのかと、複雑な思いです。

同時に、短大図書館の機能とは何であるかと考えさせられました。当然のことですが、専門図書館の要素も重要であり、利用者あつての図書館であり、書庫だけの機能であってもならないのです。双方を如何に結び付けていくかが、本館にとって今後の大きな課題と言えます。

敦賀女子短期大学図書館 竹内 雅子

ある日突然

図書館の飛躍的發展は、大抵の場合、ある日突然一つの図書館の出現によって始まる。昭和40年代東京三多摩地区の發展は、日野市立図書館の1台の移動図書館車。桁は違うが昭和50年代福井県内の図書館建設ブームは、福井市立図書館の新館オープンにより始まった。そして昭和60年代、貸出しの王者浦安の出現は、またたく間に同県内に怪物成田市立図書館を生んだ。図書館が県を単位に盛衰を繰り返すのは、地方行政の特徴である。この度3年ぶりに図書館へ復帰したが、幸か不幸かある日突然現象は県内に未だ起きていなかった。戦線復帰、間に合ったという感じの今日この頃です。

武生市立図書館 栗波 敏郎

人を知る

「何か面白い本ない？」との声が時々かかる。子供の場合は、おしゃべりの中から何となくきまるものだが、大人となるとなかなか難しい。いちばん楽なのは、気心の知れた人。選書をして、あの人、この人の顔が浮ぶ。

短時間に人を知るとは、至難のわざではあるが、長い間のうちには、それなりのカンが養われてくる。救い難いのは、資料費の予算が極端に少ない事。これでは、人と本を結びつけたくても出来やしない。それでも、何とか喜んでもらえるように、相手を知り、資料を知るようにと努める毎日である。何はともあれ、早く図書館建設を、

勝山市立図書館 松井つね子

中野重治と図書館の庭

図書館の庭には、色々な樹々が植えられ、四季により美しい花を咲かせ、来館者や鳥たちの憩いの場となっています。

春には「梔子」や「梨の木」が花を咲かせ、秋には「山錦木」や生垣の「山茶花」が赤い花を咲かせます。東京の中野家から移植された「楓梅」、「夏椿」、「月桂樹」等の樹木も庭に彩りを添えています。

中野重治氏は、『庭と畑』（中野重治全集第26巻）で、「庭木の成長を眺め、それらを楽しんでいる。」と言っている。その言葉にふさわしい庭となるよう手入れを続けていきたい。

丸岡町民図書館 田中 和夫

「私の読書考」

現代においての日本人の活字嫌いにはあきれるばかりである。これ程まで活字離れた原因は何であるか、TVやビデオなどの普及もさることながら、学校での国語教育も文法や漢字の読み書きばかりでは当然おもしろい筈がない。そうすると文章にも親しむ事ができなくなってくる。また家庭でも両親は絵本を見せるばかりで昔話を聴かせることもない。これでは想像力も育たない訳である。私は読書というのは想像の世界であると思う故に歴史物を読めば平安朝を頭に描いたりする。読書という趣味は最早TV以上におもしろい対象であるし、映画館に足を運ぶ以上に脳を刺激してくれる最上の娯楽である。

河野村立図書館 初一 剛

『私の一言』

この頃よく言われることであるが、身近から自然が消えていくように思う。食卓からは、季節も消えてしまった。四季の風情を楽しみ、四季折々の味を楽しむ。そんな、あたりまえの事すらできなくなってしまった。便利になる事はいいと思うが、その代償として、大きな何かを忘れてしまったのではないか。人間が自然を創るのではない。また、自然が人間を支配するものでもない。共に生かし生かされる事が、本当の姿なのだという事を、どうも忘れてしまっているようだ。

失くしたものは、戻らない。

高浜町中央図書館 海透 敬夫

行事案内コーナー

11月中旬～
64年3月末日まで

▶福井医科大学附属図書館

☆昭和63年度北信越地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議 福井医科大学 11月29日(火)・30日(水)

▶福井市立図書館

☆紙芝居・絵本の読み聞かせ 市立図書館 毎週(土)14:00～

▶敦賀市立図書館

☆親と子の童話のつどい 市立図書館 11月下旬 ☆親子映画会 市立図書館 12月4日(日)・64年3月5日(日) [いづれも10:30～14:00～の2回] ☆クリスマスのつどい 市立図書館 12月18日(日)10:30～ ☆市読連合同読書会 市立図書館 2月 ☆おはなしと紙芝居の会 市立図書館 毎月第2(日)10:30～

▶武生市立図書館

☆県民大学講座 武生市中央公民館 11月19日(土) (21世紀を生きる子どもたち 福井大学教授・小林剛氏)・26日(土) (子どもの健康を願って 福井光陽生協病院 木村牧子氏)・12月3日(土) (人形劇の魅力と子どもの夢ー子どもがどこで目を開くかー 劇団むすび座 前田耕一氏)・10日(土) (子どもの心に叙事の世界を 武生市立図書館長 加藤良夫氏) [いづれも14:30～16:00] ☆古文書を読む会 市立図書館 毎月第1・3(木)17:00～ ☆LD名画観賞会 市立図書館 毎週(土)14:00～

▶小浜市立図書館

☆紙芝居 市立図書館 毎月第2(日)13:00～ ☆古文書解説基礎講座 市立図書館 毎月第3(木)17:00～

▶大野市図書館

☆奥越合同読書大会 市図書館 11月19日(土)13:10～ (テキスト 宮沢賢治著「雪渡り」 講演会 演題「私の宮沢賢治論」 講師 宮沢賢治研究家 土肥春夫氏) ☆子どもの広場 市図書館 春休み中 詳細未定 ☆講演会 市図書館 詳細未定 ☆絵本と紙芝居の読み聞かせ 市図書館 毎月第2(土)14:00～ ☆いっしょに読もう会 市図書館 毎月第4(日)14:00～ (12月11日 [第2(日)] テキスト 藤原てい著「流れる星は生きている」 「旅路」・64年1月29日13:00～ テキスト マーク・ペプロ著「ラスト・エンペラー」 ビデオ「ラスト・エンペラー」)

▶勝山市立図書館

☆おはなしでてこい 市図書館 毎月第4(土)14:00～

▶鯖江市図書館

☆ドフトエフスキーを読む会 市図書館 毎月第3(土)14:00～

▶三国町立図書館

☆三国町読書大会 町立図書館 11月26日(土)14:00～ (当館の運営状況報告 読書会その一年のあゆみ 夏休み児童感想文優秀作品朗読 講演会 演題「戦国武将とその妻」 講師 作家 中島道子氏) ☆三国町合同読書会 町立図書館 2月中旬 読書会会員対象) ☆児

童文学散歩 三国町内 3月下旬 (文学史跡巡り 小学生高学年対象) ☆紙芝居とお話会 町立図書館 毎月第2・4(土)14:00～ ☆長期文学講座 町立図書館 11月19日(土)14:00～ (「細雪」を読む 講師 仁愛女子短期大学教授 坂本政親氏)

▶芦原町立図書館

☆おはなし会 町立図書館 毎月第4(土)14:00～

▶金津町立図書館

☆童話の会 金津中央公民館 2月8日(木)10:00～ ☆現代文学講座 町立図書館 毎月第4(木)13:30～ ☆古文書講座 町立図書館 毎月第1・3(木)13:30～ ☆名作童話を読む母の会 町立図書館 毎月第2(木)10:00～ ☆古典文学講座 町立図書館 毎月第2(木)13:30～ ☆古文書入門講座 町立図書館 毎月第2・4(土)13:30～

▶丸岡町民図書館

☆おはなしの森 町民図書館 毎月第1～4(土)15:00～

▶坂井町立図書館

☆こどもランド(映画会) 町立図書館 毎月第4(土)14:00～

▶今立町立図書館

☆おはなしの会 町立図書館 毎月第1・3(土)14:00～ ☆みんなあつまれ、こどものひろば 町立図書館 毎月第3(土)14:00～

▶河野村立図書館

☆読書会文学散歩 京都方面 11月

▶朝日町立図書館

☆昭和63年度朝日町読書感想文コンクール (締切 64年1月20日)

▶上中町立図書館

☆講演会 上中町中央公民館 11月 詳細未定 ☆合同読書会 上中町中央公民館 64年2月 詳細未定

▶福井県立図書館

☆市町村立図書館職員実務講座 県立図書館 12月15日(木)10:00～11:30 ☆福井県図書館関係職員研修会 県立図書館 12月15日(木)13:20～15:00 (講演会 演題 生涯学習社会の図書館 講師 福井新聞論説副委員長 松島翠氏) ☆初心者のための現代詩入門 県立図書館 毎月第3(土)13:30～ ☆おはなし会 県立図書館 毎月第3・4(土)15:00～

事務局通信

秋も深まり、今年もまた「お泉水」を発行する季節となりました。新設図書館紹介では芦原町立図書館に登場していただきました。また、学校図書館研究協議会に派遣された先生方に報告をいただき、談話室も6名の方々にお願いしました。御多忙にもかかわらず執筆していただきました方々に厚くお礼申し上げます。